今月の読み物

この世は「アリ社会」なのか？

株式会社榎戸材木店
会長　榎 戸 正 人



エサ運び

冬に備え、庭や家庭菜園では沢山のアリがエサを探して歩き回っています。写真の真ん中あたりに小さなアリが体ほどの大きさのエサをくわえて運んでいる姿が見えるでしょうか。拡大しようかとも思ったのですがアリの小ささを強調するために、あえて拡大しませんでした。虫眼鏡を使って見て下さい。

研究によると、このように熱心にエサを探しているアリは全体の20％程度で、残りの80％は無意味に歩き回っているだけだとのことです。確かにエサを見つけても、無視して通り過ぎるヤツもいます。

人間社会でも熱心に働いているのは20％程度で、あとの80％はなんとなく会社に行き、なんとなく働いているように見せかけて、時間になったら帰る人たちもいる。仕事をしていないわけではありませんが、効率的に働いているとはいえないような……真っ先に生成AIに置き換わられるのは、このような人たちなのかも知れません。

工場でも、与えられた作業を淡々とこなしている労働者は、遠からずフィジカルAIロボットに取って代わられるでしょう。ただ、部品を組み立てるだけ、取り付けるだけの作業なら、食事もとらず、トイレにも行かず、文句を言わずに一日中働くロボットの方が、会社にとっては有難い。レストランで食事を運んだり、空いた食器を回収する配膳ロボットが普及してきていますが、導入・運用費用から時給を計算すると、時給500円程度で働いていることになるのだそうです。我が家の近くのファミレスにも２台が導入され、人間のウェイター、ウェイトレスは４人から２人に減りました。

工場の場合、ただ作業するだけではなく、ここはこうした方が能率が上がる、不良品の発生率が下がると考え、提案する労働者はリストラされずに管理者として残れるでしょう。生成AIの上を行く知恵を身に付ければ、生き残ることが出来ます。

アリの社会で新たな研究成果が発表されました。なんと、外でエサを探して歩き回っているアリは中年、高齢者のアリで、若者は巣の中で女王アリや卵、生まれた幼虫の世話をしているのだそうです。外でエサを探す作業は踏み殺されたりして危険なので、年寄りにやらせようという冷酷な社会……人間社会も外回りの営業は中高年の社員に任せて、耐えられなくなったら自主的に辞めてもらうという冷酷な世の中になるのでしょうか。会社の方から退職を要求すると割増しで退職金を支払わなくてはならないので、自分の方から辞めたいと言わせる方法をとる……アリよりも冷酷な世の中になるのかも。もっとも、アリは「歳をとったし、シンドイからエサ探しは辞めます」とは言えませんから死ぬまで働かされる。これでは80％がやる気がなくて歩き回るのも当然ですかね。どっちが幸せなのか……